



TITLE:

統計拾穂抄(二)

AUTHOR(S):

財部, 静治

CITATION:

財部, 静治. 統計拾穂抄(二). 經濟論叢 1925, 21(1): 135-139

ISSUE DATE:

1925-07-01

URL:

<https://doi.org/10.14989/128294>

RIGHT:

（禁轉載）

京都帝國大學經濟學會 經濟論叢

第 一 卷 第 一 號

大正十四年七月一日發行

論 叢

國債利子及官吏俸給の免稅……………法學博士 神戶 正雄

自殺統計論……………法學博士 財部 靜治

米價と關稅との關係に就て……………法學博士 河田 嗣郎

說 苑

商品堆積の理論……………經濟學士 谷口 吉彦

インフレーションの意義并に標準に就て……………經濟學士 小川福太郎

マクスの絶對地代と價值法則……………經濟學士 八木芳之助

雜 錄

パンタレオニ氏業績の回顧……………經濟學士 松岡 孝兒

ジエームス・新マルサス主義……………經濟學士 岡崎 文規

統計拾穗抄……………法學博士 財部 靜治

京都帝國大學經濟學會大會記事……………委 員

法 令

大正十四年國勢調查施行令・失業統計調查令・船檢舶查規定中ノ改正

統計拾穗抄 (三)

財部 靜治

三 辭源に於ける統計の義解

中華民國四(一九一五)年主任陸爾奎を初め、五十人の共著者により、編纂公刊されたる「辭源」は、現代語を收録せる點よりするも、古語の出典を割合に詳はしく示せる點よりするも、吾人の如き中華學の素養淺き者にとては、參考の

價值多きを想はすんば非ず、一例として保險の字義を解ける所によるに、現今同語通有の一義を擧ぐると共に、古く行はれたる他の一義を擧げて、「保險險要之地也」なりと説き、その一出典として隋書劉元進傳中「其餘常往々保險爲盜」の一用例あるを示せり、保險業の經營必ずしも悉く整頓せりとなし兼ねる國にありては、麗々何々保險會社てふ看板を掲ぐるものにして、險を保ちつゝ盜を爲すものも、存せんかと思はれて興味深し。而も亦諸新語に關する字義中には、適切となし得ざるものもなきに非ず、統計の字義の如きはその一例なり、即ちその字義によれば「以同一範圍内之多數事物集於一處、用算式比較、而藉以觀察其一般的狀態之數量者、謂之統計」としたり、全然誤れりとはなし兼ねべきも、明確を缺くの譏りは免れず、之を五十年前清人黃遵憲が、本邦統計表につき説ける所(拙著社會統計論綱一及三頁參照)に比するに、進歩せるもの幾何なるかを知らず。

四 統計調査の結果公表を

見る迄の期間

「大正十四年十月一日午前零時」と謂ふが如き、一統計調査に於ける基本材料視取りの、標準時たるべき一瞬間の定めは、その統計の本源觀察を遂ぐるために、意義ありとすべきのみ、されど又統計調査に於ける「時の元素」を廣く觀せんか、視取りにより得られたる、材料の統計技術的整理の過程、並にその以上に表に仕上げられたるものに手入れを加へ、最後に公表により實際及學問の用に、供する迄に費やさるべき、輕過期間の意義につきても亦一瞥を加ふべきものあり、その期間の長きと短きとは、決して無差別なりとするを得ず、極端に流れつゝ、或は仕事を過急に進捗せしめ、ためにその成績を不良ならしむることも避くべく、或はその事務及公表を、過度に延引せしむることも避くべし、實際及學問上のあらゆる要求をも、斟酌せるが如き形式にて公表することにより、整理事務の局を結ぶことは、各調査に於ける具體的整理事務の繁多又は單純に訴へ、尤もらしとすべ

き意味にて、「出來る丈け早」きを可とす、手廣き範圍迄及ばされ、特に學問上の總括的整理を遂げたる點に於て、然りとすべき一公表の實例として、近時の獨逸に就きて擧げ得べきは、一九〇七年の全獨職業及營業調査の總結果公表なり、尙茲に附言なくして已み難きは、一九一〇年の北衆合衆國第十三回センサスに關して、公布されたる一九〇九年七月二日の法律中、整理の期間又は公表による整理事務終了期につきても、亦決定を與へたる立法の斷乎たる一先例なり、即ち同法中定むる所によるに、六月三十日を以て終了すべき一九一〇會計年次は、第十三センサス實施せられ、又その結果の總括公表を完了せしむる要ありとして、定めしセンサス期間三ヶ年間の、第一年次たるべしとせり、而してその規則は又大體に於ては遵守されたり、唯制限的として些細なる特別編成の若干結果は、追加刊行としてその後に見はれたり。

我邦第一回國勢調査に於ける、大正九年十月一日の基本材料視取りの結果公表は、今日に至

るもその一部に限らるゝがために、その豫定の完了期を短縮せしむべしとの主張は、今春の議會に於ても叫ばれ、又近日に至り本邦行政統計諮問機關の議にも上されたり、惟ふに大正十八年に至らずば、その完結を告げしむるを得ずと謂ふが如きは、餘りに優長なり、これ一は職業別統計の如き本邦最初の試みを含み、整理事務の進捗意の如くならざるによることも或は存すべしと雖も、その重大理由は經費の不足に存することを信じて疑はず、吾人は豫算の決定に預るべき諸機關、特に立法府の議員諸士が、前記整理期間の意義につき深く考慮せられ、今後に於けるその經費の増額に、協賛又盡力せられんことを希望せずんば非ず。

五 郵便貯金と簡易保險

貯蓄と生命保險とは、一見互に拒反するの關係にあるが如しと雖も、共に將來を慮る心のあらわれとして、並び行はるゝがために、その統計上多少消長自からその揆を一にすることあり、今此見地に基づき、第四十一(三四五頁)及第

四十三回(三四頁)統計年鑑により、大正九年度末郵便貯金預人員及簡易生命保險契約件數府縣別に就き、各人口千人當りを拔萃表示することゝせんか。

	郵便貯金 預人員	簡易保險 契約件數
一 滋賀縣	七五六・四	六二・四二
二 宮城縣	六一六・八	二五・九七(三九)
三 奈良縣	五九九・七	三三・〇二
四 京都府	五六九・六	六八・六九
五 東京府	五四九・七	四五・二五
六 島根縣	五四二・七	二九・九七
七 福井縣	五二九・二	九七・七六
八 徳島縣	四八一・七	二八・九四
九 山口縣	四六九・七	三三・九八
一〇 香川縣	四六二・二	四二・九八
一一 廣島縣	四五九・五	四八・六七
一二 三重縣	四五二・八	六八・二〇(五)
一三 大阪府	四四五・七	二七・五四(三六)
一四 長野縣	四三一・三	六三・九六(七)
一五 福岡縣	四三〇・七	二九・九三(三一)
一六 岐阜縣	四〇三・七	四六・四四(一二)
一七 神奈川縣	三九〇・九	三五・〇六(二一)

一八 和歌山縣	三八九・三	三二・五二(二六)
一九 兵庫縣	三八八・九	一九・一〇(四五)
二〇 北海道	三七六・二	四三・七四(一五)
二一 愛知縣	三七一・四	五二・三四(九)
二二 鹿兒島縣	三六八・一	二五・一一(四〇)
二三 石川縣	三六七・一	七九・九四(四三)
二四 岡山縣	三六五・八	二七・五四(三七)
二五 福島縣	三五五・七	三一・四九(二九)
二六 佐賀縣	三五二・三	二四・〇一(四二)
二七 茨城縣	三四八・四	二六・三四(三八)
二八 秋田縣	三四五・七	三三・六五(二四)
二九 山形縣	三三七・七	四五・四〇(一三)
三〇 千葉縣	三三五・六	三四・四三(二二)
三一 群馬縣	三三三・六	四二・六九(一七)
三二 長崎縣	三三〇・五	三二・〇一(二七)
三三 岩手縣	三二〇・一	二八・四五(三四)
三四 靜岡縣	三一六・八	四七・六八(一一)
三五 熊本縣	三一〇・二	三八・九〇(一八)
三六 鳥取縣	三〇五・四	二一・五一(四三)
三七 栃木縣	三〇二・二	三六・六一
三八 青森縣	二九五・五	三七・四八
三九 富山縣	二八九・九	八九・八三(二)
四〇 愛媛縣	二八四・八	一九・一七
四一 宮崎縣	二七九・二	二四・二一

第二十一卷 (第一號 一三八) 一三八

四二 大分縣	二七〇・四	一八・七〇
四三 高知縣	二六四・四	二八・七四
四四 山梨縣	二六三・六	二七・七七
四五 新潟縣	二六一・一	六五・二二(六)
四六 埼玉縣	二五三・七	三一・六四
四七 沖繩縣	八三・三	二・九二
總計	三九二・三	三九・六九

冒頭に掲げし數字は、表中貯金預人員の多少順によれる順位を示せるものなり、(第四十三回統計年鑑略説三一頁中、「大正十二年三月末」郵便貯金云々と、書出せる後を承り、人口百に對する貯金者の割合として示さるゝ所は、前表に掲ぐる九年度末の計數に立脚するゝが如し、果して然りとせば次回年鑑以後に於ては、その年次を明記せられんことを希望す) 同順位第一二乃至三六の諸府縣(及他の三縣)に就き、特にその脚部に附記せる計數は、表中保險契約件數の多少順によれる順位を示せるものなり、方法粗大の嫌は免れずと雖も、右兩順位上兩つ乍ら第一二及第三六位の限界内に立つべき府縣と、然らざるものとを檢し、同限界内の府縣二五中一四即ち約五分の三は、前者に屬することを察し、貯金人員多き所大體に保險契約件數も亦多きの關係を、窺はんとせるも

のなり。素よりこは梗概的否寧ろ試験的考察に外ならざることを注意すべし、第一に一年度末の計數を問へるのみにて、終結的判斷を下すは危険なり、殊に簡易保險開始されたるは、大正五年八月二〇日にあり、大正九年度末に至る日子尙淺きを以て、その契約件數の多少中にはその地方の經濟事情を反映せしむとすべきよりは、その地方郵便局員によれる加入勧誘熱烈の程度に、相違ありし影響を含むこと尠からずと推測せずんば非ず、特に宮城、石川、富山、新潟の諸縣が、前表兩順位の序數上、甚だしき轉倒を示すを見て之を想ふ、第二にかゝる考察目的よりせんか、曾に人員又は件數を問ふのみならず、貯金者一人平均預金額及保險契約の一件平均保險金額を、併せ考ふるの要あり、大正九年度末に於ける郵便貯金丈けにつきて見るに、埼玉及新潟の二縣はその預人員順位上、下位に立つも、その平均預金高順位よりせば割合に上位にあり（前記四十三回年鑑に掲ぐる計數によればそれぞれ第六位及第三二位）滋賀及宮城の二縣は之と反對

に、前者に於て最上位にあるも、後者上割合に下位に立つ（それぞれ第三六位及第四六位）の例あるを以て、之を想はずんばあらず、第三に地方住民暮し向の良否、勤儉の美風普及程度等に關する、兆候觀察的資料として、一層確實なる計數を得んと欲せば、各種銀行及信用組合の預金貯金、無盡會社の掛金、並に私營生命保險會社の統計等に就き、府縣別比較研究を及ぼすの要ありと雖も、吾人は前記の簡單なる地方別統計表によるも、尙一應興味ある地方的相違を、看取し得べきことを想はずんば非ず。